

学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する
学術情報の基盤形成に関する検討委員会（第25期・第4回）
議事要旨

1 開催日時:令和5年9月21日(木)10:00~12:20

2 会場:オンライン開催

3 出席者(五十音順、敬称略):

市古 みどり、加藤 忠史、行場 次朗、小安 重夫、高倉 浩樹、田近 英一、
菱田 公一、山口 周

欠席:下田 正弘、武田 洋幸、丹下 健、永崎 研宣、吉見 俊哉

参考人:安藤 聡子(Clarivate Analytics 社 リード・ソリューション・コンサルタント)、
金藤 伴成(東京大学附属図書館 情報管理課長)

4 議題:

1) 前回議事要旨の確認

前回議事録について委員長から報告があり、異議なく承認された。

2) 電子ジャーナル購読の最近の動向について:

JUSTICEの金藤伴成氏より、最近の電子ジャーナル購読契約の動向とJUSTICEの関わりについて詳細な説明があった。また、学術情報に関する政府方針と予想される影響について議論が行われた。

3) 電子ジャーナル発行の最近の動向について:Clarivate Analytics 社

Clarivate Analytics社の安藤聡子氏より、最近の学術出版の動向について、出版情報から解析した日本の学術ジャーナルの現状に関する説明があり、ジャーナル出版全体にわたって議論が行われた。

4) 今期の活動の総括と次期への申し送り事項

委員長より、我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会と合同で今期設置した「少子化時代のサステナブルな学術環境・エコシステムに関する分科会」の活動報告が行われた。また、本委員会委員長及び役員が作成した別添資料「今期の活動の総括と次期への申し送り事項」が今期の活動についての総括と次期への申し送りである。なお、最終的な議事録の記載については、委員長一任とすることとした。

5) その他

該当なし。

以上

資料:

資料1: 議事要旨案(第3回)

資料2:「JUSTICE における出版社交渉の最近の動向について」JUSTICE:金藤伴成

資料3:「Web of Science データからみる学術出版の最近のトレンド」クラリベイト:安藤聡子

資料4:合同分科会の第 25 期活動報告(案)

参考資料1:委員会活動報告

【別添資料】

今期の活動の総括と次期への申し送り事項

令和5年9月22日

委員長 山口 周

今期の活動では、本委員会の開催は種々の事情から予定した回数には達しなかったが、合同分科会の設立により、学術情報が関わるより広範な課題を対象とした活動を行うことができた。一方で、24期に第三部理工系学協会の活動と学術情報に関する分科会から発出した「提言 学術情報流通の大変革時代に向けた学術情報環境の再構築と国際競争力強化」について、すべての学術分野に関わる課題の抽出と対策について検討して、その実現に至る方策を提案することが当初の予定であったが未達となった。これはこの間に学術情報環境の大きな変化があったことも一因である。

最近の新たな政策として2025年から始まる税金を原資とする研究資金に関する即時OA化の開始が宣言されたことを始めとして、学術情報環境の大きな変革が始まっていることが明らかになった。また、電子ジャーナル購読や学術情報発信に関する状況の急激な変化も始まっている。このような変化には、これまでの学術情報に関する様々な提言は、部分的には実現されたものもあるが、一方では新たに生じる種々の課題も想定されるため、学術情報環境の状況把握とその整備に向けた適切な意見の発出が必要と考えられる。したがって、継続的に動向把握と時宜に敵った適った意思の表出が必要であるために、今後も引き続き中長期的な課題検討が必要である。

以上の今期活動の総括より、「次期においても本委員会を設置して状況調査と検討を継続し、適切に問題を指摘するとともに対策について提言する必要がある」が次期の活動に向けた申し送り事項である。